

日本教育学会による提言「9月入学よりも、いま本当に必要な取り組みを」への賛同声明

日本カリキュラム学会理事有志

2020年5月31日

2020年5月22日に、日本教育学会「9月入学・始業制」問題検討特別委員会より、提言「9月入学よりも、いま本当に必要な取り組みを一より質の高い教育を目指す改革へー」が、文部科学省の担当者に提出されました。

・提言全文

<http://www.jera.jp/wp-content/uploads/2020/05/JERA20200522SpecialCommitteeTeigen.pdf>

・概要

<http://www.jera.jp/wp-content/uploads/2020/05/JERA20200522SpecialCommitteeSummary.pdf>

提言の第Ⅰ部では、9月入学・始業が実施された場合にどんな措置が必要になりどんな問題が生じるかが分析・予測され、第Ⅱ部では、現在の状況への方策として行うべき取り組みが具体的に提案されています。「概要」の方は財政面の議論の要約にややウェイトが置かれすぎている感がありますが、「提言全文」の方では、「9月入学・始業制」について私たちカリキュラムの研究者から見ても行き届いた検討がなされています。

このたびのコロナ危機は、子ども・若者やその教育者に対して、身体的・精神的ケアの必要性、学びの遅れや学力の格差拡大への対応、経済的支援、入試準備や就職活動への対応など、さまざまな課題をもたらしています。こうした課題に対していま急ぐべきことは、教育課程の調整、教材の提供・配信、関係教職員の配置、ICT利用環境の整備充実、財政的支援などの対策を手厚く進めることです。

学習権の保障や心身のケアと9月入学・始業という制度改革とを同時に進めればよいという意見があるかもしれませんが、財政的・人力的・時間的な制約を考えれば、その提案は現実的とは思われません。

以上から、私たち日本カリキュラム学会理事有志は、日本教育学会の提言に賛同いたします。

賛同者（日本カリキュラム学会理事、五十音順）

安藤輝次（関西大学）	中野和光（美作大学）
石井英真（京都大学）	西岡加名恵（京都大学）
磯田文雄（名古屋大学）	二宮衆一（和歌山大学）
上地完治（琉球大学）	橋本美保（東京学芸大学）
工藤文三（浦和大学）	富士原紀絵（お茶の水女子大学）
倉本哲男（横浜国立大学）	松下佳代（京都大学）
子安潤（中部大学）	的場正美（東海学園大学）
澤田稔（上智大学）	村川雅弘（甲南女子大学）
柴田好章（名古屋大学）	八尾坂修（開智国際大学）
高橋亜希子（南山大学）	山口満（筑波大学名誉教授）
田中耕治（佛教大学）	吉富芳正（明星大学）
田村知子（大阪教育大学）	